

防災かわら版 ~ペットとの同行避難を考える~

問合せ先 防災安全課防災係（河内庁舎2階） ☎ 36 4 1 4 5

震災等の災害発生時には、多くの飼い主がペットを連れて避難することが想定されます。しかし、避難所等は多くの被災者が避難生活を送る場所であり、中には動物が苦手な人や動物アレルギーを持った人もいます。人とペットが安心して避難生活を送れるよう同行避難について考えてみましょう。

同行避難の事前準備をしよう

- ・ワクチン接種、狂犬病予防接種
- ・寄生虫の予防、駆除の実施
- ・シャンプーやトリミングで身体を清潔に
- ・最低限のしつけやケージに慣らす訓練を
- ・住宅の耐震化や、フード、トイレシートなどペットの避難セットの準備



指定避難所以外にも親戚や友人など複数の一時預け先を探しておこう！

備えておくもの

- ペットフード・水（できれば7日以上）
- キャリーバッグやケージ
- 予備の首輪
- ペットシート、トイレ用品、排泄物の処理用具等



発災時、避難所に着いたら

ペットの一時飼育場所において、拠点のペット飼育ルールや運営管理者の指示に従い、飼い主が責任を持ってペットの飼育・衛生管理を行います。

守るべきこと

- ペットはキャリーバッグやケージに入れる
- 飼い主の名前と所在を名札に明示する
- 一時飼育場所やケージの清掃・消毒
- 排泄は決められた場所で行い、適切に処理



「同行避難」は、ペットと一緒に安全な場所まで避難することです。避難所の同室で飼育できるという意味ではありません！

【同報無線による放送を聞き逃した皆さまへ】

同報無線放送後 24 時間以内であれば、放送内容を自動音声により確認できます（通話料金がかかります）。
電話番号 36 3 8 6 6

こんにちは！地域おこし協力隊「情報発信部門」として活動しています。鈴木和隆です。情報発信部門は、他の部門と比べると活動の姿が目に見えないことが多く、「何をしているのか分からない」と思われているのではないかと感じていました。そこで、少しでも身近に感じてもらえるようにと思い、コラムを通じて日々の気づきやイベント情報を移住者の視点でお伝えさせていただくことになりました。さらに、観光誘客促進部門として活動している高橋さんもお誘いし、2人で掲載していくことになりました！

私は今年の5月に下田へ移住しました。移住してから気づいたことは、地元の方々にとって当たり前の風景や文化も、私にとっては新鮮であるということです。例えば、エメラルドグリーン色の海や、まちの至るところに残る歴史の痕跡、地元の方々との何気ない会話から知る歴史の話。

このコラムを通じて、そんな下田市の魅力を改めて感じていただけたら嬉しいです。

鈴木 和隆

地域おこし協力隊の活動コラム



鈴木 和隆

高橋 真希

こんにちは！観光誘客促進部門の高橋真希です。協力隊活動報告に加えて、毎月、コラムを書かせて頂くことになりました。

記念すべき第一回は、「我が家のみかん」です。船橋の実家の畑には、祖父が買ったみかんの木が植えてあり、毎年、実家で食べる分、親戚や近所の方に配る分程度には、実をつけてくれます。船橋は東京のベッドタウン。無農菜のみかんを育てている家はなかなかありません。それが我が家の自慢でした。

下田で生活をしていると、そんな我が家の自慢はごくごく普通のことなのか？と不思議に思う程、地元の方から「我が家のみかん」を頂きます。雲州みかん、ネーブル、ポンカン、橙、はるひ、夏には、夏みかんの「ご自由どうぞ」も、たくさん見かけました。確かに、伊豆と言えば柑橘のイメージはありますが、まさかワンシーズンで、こんなにたくさん種類ののみかんを食べられるとは！当たり前のごともいれませんが、品種によって全く味が違うことに感動しっぱなしの、初めての下田での冬でした。

高橋 真希